

♪ 2016年度 **poco a poco** ♪

Nr. 4 2016年6月10日(金) 文責: プファイル・辰巳

あくび

歌うことと「あくび」は大いに関係があります。声楽の専門的なレッスンでも、あくびをするように喉の奥を開け、あくびの時自然に出てしまう声のように発声するように、とよく指導されます。

でも、今日の「あくびのお話」は、発声に関するものではなく、最近の子どもたちの様子を見て、「少し気になるあくび」のことです。

午前中から、低学年の子どもたちでも大きな、大きなあくびをしている子が、音楽の時間に何人もいます。高学年や中学部の子どもたちも、あくびを噛み殺しながら授業を聞いている子や、午後になると目も開けてられなくなるほど、眠そうな顔をしている子もいます。

「睡眠時間が足りてないのかな？」時々気になって、みんな何時ごろ就寝して、何時ごろ起床するのか、授業の中で尋ねることがあります。低学年の子どもたちでも、夜の10時、11時まで起きているという子がよくいます。起床時間も結構早くて、昔の子どもたちほど寝ていないような感じを受けます。現代人の平均睡眠時間は短くなっているのでしょうか？

「寝る子は育つ」「早寝早起き」などという言葉もありますが、やはりよく寝て、よく食べて、しっかり排便するというような生活の基本が、元気で有意義に過ごす学校生活の基本でもあると思います。

睡眠不足では、授業中の集中力にも支障が出ますし、体調不良の元にもなります。

6月21日の夏至まで、まだもう少し日は長くなります。明るいと、つい寝るのも遅くなってしまいがちですが、厳格なドイツ人家庭では、どんなに外が明るくても、子ども部屋のシャッターを早くから下して、寝かしつけるようです。しっかり睡眠時間を確保して、朝からお目目パッチリ、やる気満々で登校してほしいものと願っています。



音楽こぼれ話 <あの町、この町、音楽家が住んだ町 ②

ハイデルベルク～シューマンやブラームスゆかりの町>

ハイデルベルクは美しい大学町で、観光の町としても日本人にとっても有名な町ですね。フランクフルトからもそう遠くないので、訪れたことのある人も多いと思います。

そのハイデルベルクにも、ゆかりのある音楽家たちが何人かいます。今日は3人のハイデルベルクにゆかりのある音楽家たちを紹介しましょう。

一人目は「ロベルト・シューマン」。シューマンは作曲家になる前は、お父さんの勧めで法学を勉強していました。彼が法学部の学生として過ごした町がハイデルベルクでした。ハイデルベルク大学で法学を勉強し始めたシューマンでしたが、音楽に対する志の方が強くなり、結局1年だけ法学を勉強した後、法律家になる道は捨てて、ハイデルベルクを去りました。

二人目は、シューマンの弟子「ヨハネス・ブラームス」。ブラームスは、どうやら旅行が好きだったようで、当時走り始めたばかりの蒸気機関車なども利用して、住居を構えていたウィーンから、毎年、あちらこちらに旅行したり、いろいろな町で夏の休暇を過ごしたりしました。ハイデルベルクにも、旅行で6回も来たことがあり、1875年には、ハイデルベルクの隣町、チーゲルハウゼンというところで、ひと夏をたっぴり過ごしました。

三人目は「ヴィルヘルム・フルトヴェングラー」です。20世紀に大活躍した名指揮者です。世界中で活躍しましたが、特にベルリン・フィルの指揮者を長く勤めました。ハイデルベルク大学からは、1927年に名誉教授として迎えられています。フルトヴェングラーが亡くなったのは、1954年のことですが、お墓は、ハイデルベルクの Bergfriedhof (山の手墓地) にあるということです。

今回紹介したのは以上の3名だけですが、美しい大学町ハイデルベルクを訪れた音楽家は、もっとたくさんいると思います。ハイデルベルク近郊には、ラーデンプルグ、ヴァインハイム、ヒルシュホルンなど美しい町々がたくさんあります。みなさんも、機会があればドライブしてみてください。

ほんのちょっとだけ 演奏会情報

～パイプオルガンコンサート～

6月12日(日) 18時から

Dreikönigskirche

ドライケーニツヒ教会 (ザクセンハウゼン) にて

6月19日(日) 18時から

St.Katharinenkirche 聖カタリーナ教会 (ハウプトヴァッハ) にて

